

無人店舗がもたらすイノベーションと今後の課題（
実習の進捗発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 正原, 英晃, 古澤, 岳, 江頭, 遼平, 松浦, 諒 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026608

無人店舗がもたらすイノベーションと今後の課題

正原英晃，古澤岳（情報社会学科），江頭遼平，松浦諒（情報科学科）

現在日本では少子高齢化に伴って労働人口が減少し，社会問題化している．国会に外国人労働者の受け入れを増やす法案を提出するなど，政府も対策を講じている．また，過疎化が進み地方に住む人達が店舗不足に悩まされている現状があり，問題視されている．本研究では，このような問題を解決する手段の一つとして期待されている無人店舗について調査を行い，10年後の高齢社会での運用を考察した．現状，海外にモバイル端末を用いた決済システムによって店舗で会計をせずに買い物ができるキャッシュレス会計が普及しつつあり，国内でも同様に，キャッシュレス会計を用いた無人店舗が登場しつつある．しかし店舗の完全無人化には，清掃や品出し，配送といった点の自動化に問題が残っており，これらを10年後までに実現することは難しいと判断される．このような技術的課題に加えて，一括した電子マネーでキャッシュレス化を図ることや，地域毎で並ぶ商品を変えることなどの社会的課題の解決の必要もある．以上のように，現在の無人店舗の形では10年後のニーズには間に合わないと考えられ，技術面および社会面双方から根本的に新たなアイデアを考案することが必要だと考えられる．

（学習マネジメント・3クラス）